

第1章

概要

三小田 博 昭

1) 目的

国際的素養を身につけるために、既存教科すべてに「協同的探究学習」を取り入れ、他者とコミュニケーションを取りながら協同して問題解決する学習方法を開発する。

められる。既存教科「協同的探究学習」を取り入れることで、現代社会が求める、他者と協同して問題解決ができる、国際的素養を身につけることができる。

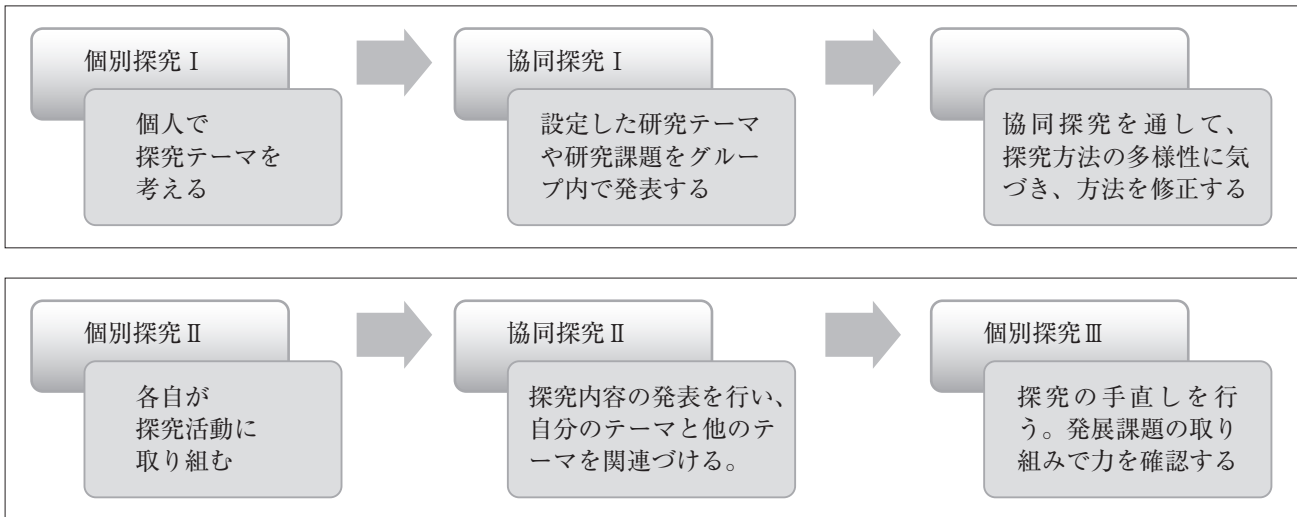
(2) 期待される効果

現代社会における地球的課題に対しては、他民族・多国籍の人々と協力して課題発見と課題解決をする必要がある。そのためには偏見や偏狭な思考と行動から脱し、人間相互のインタラクションを重視する思考と行動が求

(3) 内容

「協同的探究学習」では、問題を解決するための方法は多様にあり、自分の持っている知識と他者が持っている知識を活用しながら、問題解決法を自分で考案することである。その思考プロセスを他者に表現し、共有することで問題の本質を理解し、問題解決にあたる「わかる学力」を育成する。

(4) 指導方法



(5) 期待される効果の検証 ～ 2017年度 高校1年生意識調査の結果 (12月) より～

附属中学校から「協同的探究学習」を経験している附属中学生 (内進生) は、「ものごとを関連づけて考え、その結果を自分の言葉で表現する」意識が、高いことがわかる。また、多様なバックグラウンドを持つ人たちと協同してものごとに取り組もうとする意識も高いことがわかる。(文責 三小田博昭)

2017年度入学の内進生 (協同的探究学習経験あり) と外進生 (協同的探究学習経験なし) の比較

質問項目	5件法平均 (内進生)	5件法平均 (外進生)
学習している単元と他の単元を関連づけて学習している	3.4	3.12
書いてある言葉をそのまま使って答えようとしている	2.82 (逆転項目)	3.53 (逆転項目)
考えた解決法を自分なりの言葉で説明できる	3.83	3.59
さまざまな国の人と仕事をしてみたい	3.49	2.94